

## 「急成長！インドの家具サブスクリプションサービスの動向」

田中 啓介

## ＜インド国内家具の需要動向＞

インドの家具市場総額は、2020年には約2,000億米ドルと推定されており、2030年には約7,500～8,000億米ドルに達すると予想されています。因みに、帝国データバンクの調査では、同年の日本の家具市場規模は1兆5,000億円、米ドルに換算すると約13.5億米ドルです。インドの家具市場が急成長している主な理由は、中流階級人口の急激な増加に加え、労働人口の都市間の移住の増加のため核家族化が進んでいることから、家具へのニーズが高まっているものと考えられます。

2021年のインドの世帯年収の平均値は3,168米ドルと推定されており、家具の購入に使える可処分所得はそれほど高くありません。主に都市部の人口を対象とした場合、単身者の1ヶ月の生活費は約326.5米ドル、4人家族の場合は1,138.1米ドルです。そのため、信頼性が高く、長く使えて、見た目も美しい、つまり高価な家具を購入できるのは、一部の裕福な家庭か、ローンを組んで購入する人に限られています。一方で、インドのGDP年間成長率は2022年に7.0%、2023年には6.5%と予測されており、急速な経済成長でスタートアップ企業も数多く生まれ、それに伴うオフィススペースの確保と家具の需要も高まっています。

## ＜家具サブスクリプションサービスの出現＞

家具のサブスクリプション(※1)サービスをインドで恐らく初めて提供したFurlencoは、2011年に創業されました。レンタル家具には、さまざまなメリットがあります。ユーザー側の視点では、コストが低いことに加え、スマートフォンのアプリで簡単にアクセスできることや、組み立て・分解の手間が少ないことなどがあります。サブスクリプションは必要な時にすぐに始められて、不要になったらすぐに止めることができます。さらに、これらのサービスでは、引っ越しに伴う移動サービスや、急に家具を交換したりするオプションも提供されており、分散型社会から都市圏への人口や経済活動の移動が進むインドにとっては非常に便利なサービスです。

世界的なコロナ禍により自宅にリモートワーク環境やオフィスとしての機能が突然必要となったことで、この市場の成長はさらに加速しています。また、リモートワークを今後も継続するかどうかかわからないが、今だけ机と椅子が欲しいといった時に使用できるレンタル家具を選ぶ人も増えています。一方、商業施設でもコスト削減のために、購入ではなくレンタル家具を採用するケースが増えています。また、レンタル家具スタートアップは業界全体の順調な成長によりTier2、Tier3(※2)の都市にも進出し始めています。

※1 定額料金を支払い、一定期間決められたサービスを利用すること。

※2 Tier1は人口400万人以上の大都市、Tier2は400万人未満100万人以上の都市、Tier3は100万人未満の都市を指す。

## ＜スタートアップ企業Furlencoの紹介＞

Furlencoの創業者のAjith Mohan Karimpana氏は、アメリカでゴールドマン・サックスに5年以上勤務した後、アメリカを離れてインドに戻るときに自身の家具の処分でかなりの損失を出したことから、家具のサブスクリプションサービスを思いついたそうです。2021年7月、南アジア・海外市場への事業拡大のために1億4,000万米ドルの資金を調達し、今なお事業を積極的に拡大し続けています。まさに上述のとおり、インドの主要都市圏のみならず、Tier2、Tier3の都市へも進出をしており、現時点でインド国内15都市にてサービスを展開しています。



(<https://www.furlenco.com/about-us>  
(出典：Furlenco社のホームページより))